

立ち向かう勇氣持って

日野中学生人権作文奨励賞

鳥取地方法務局と鳥取県人権擁護委員連合会が行った、平成21年度全国中学生人権作文コンテスト鳥取県大会で、日野中学校3年の生徒が奨励賞を受賞、1月15日に日野中学校で表彰式が行われました。

その受賞作品を紹介します。

生徒の氏名は非表示としています

▼平成21年度全国中学生人権作文コンテスト鳥取県大会奨励賞受賞作品

差別に負けない自信

日野中学校 3年

世の中が差別であふれていた時代から現代までの流れの中で実際に差別は減ってきている、と被差別部落だった地域に住んでいるわたしが差別を受けていないことからそう感じています。その変化は、差別に立ち向かっていった、たくさんの人々の差別に負けない自信と勇氣ある行動の結果だとわたしは思います。その、差別に負けない自信をつけるためにはわたしたちに出来ることはたくさんあると思います。

わたしが住んでいる地域では、小学生は毎週火曜日に、中学生は毎週木曜日に「地区学習会」を開いています。地区学習会では教科学習と地域学習を中心に学習をしています。特に地域学習では、地域に住んでおられる方にお話を聞いて昔被差別部落だった地域の歴史を調べたり、人権に関わる世界の動き

を復習したりして人権や差別について学んでいます。このような学習を進めていくなかで、実際に差別を受けた人の悲しみやその時の気持ちなどがリアルに伝わってくるので、自分は絶対にこんな思いを人にさせてはいけない、周りに流されて加害者にも被害者にもなつてはいけないなどというよ

うな気持ちが生まれてくることが多いので、わたしたちには徐々に差別に負けない自信をつけていきたいという思いが強くなってきています。わたしは実感しています。

実際に、普段の学校生活の中で自分の正直な思いや気持ちや嫌われてしまっているのではないかと、明日から仲間外れになってはいないだろうかということは何よりも心配してしまっていたわたしは、自分の気持ち、意志をはっきりと相手に伝

えることが出来ませんでした。人に嫌われないように自分をおさえて日々を過ごしているうちに本当の自分を見失ってしまい、また自分の気持ちがわからなくなってしまう時も少なからずありました。

しかし、地区学習会での取り組みを続けてきたおかげでうまれた、差別に負けない自信と勇氣をふりしぼるための勇氣を自分のものとした時、差別に負けずに立ち向かうという気持ちを行動にうつすことが出来るようになりました。

このような変化があった中学一年生から二年生にかけてわたしの差別に負けない自信の大きさもその質も、だんだんと大きく、そしてより良いものになってきていると思います。

わたしの場合は、一緒に立ち向かっていける仲間がいたので、自分の意志を言葉に

して、ひるむことなく、直接伝えることが出来ました。小さなことだけれど、これは一つの大きな「行動」だと思います。

差別はしてはいけないことだ、差別をなくそう、なくしたい。そのためには何か行動を起こさなければならぬ。今までにわたしはこのようなことをたくさん、言ったり聞いたりしてきましたが、これを実現するためには、まず個人個人が「差別に負けない自信」を持つこと、そして時には団結することが始まりだと思っています。

わたしは被差別部落だった地域に住んでいて、たとえこの先差別を受けてしまうのではないかと不安が的中するようなことがあったとしても絶対に負けないという自信を全面に出して闘っていききたいです。



まちのふれあい健康相談室

健康福祉センターだより

日野町健康福祉センター
【山村開発センター内】
電話 72 1852

平成 21 年度の内容 (2月未現在)	開いた回数	参加した人数
筋力向上	41回	408人
栄養改善	10回	120人
口腔機能向上	2回	14人
認知症予防 (図書館昔なつかし写真 で語る会)	5回(2回)	55人
作業療法 (手芸など)	2回	18人
計	60回	615人



長生きは口の健康から

いつまでも生き生き元気に 「ぼかぼか教室」に参加してみませんか

町では、地域ぐるみでの介護予防教室として、平成16年度から「ぼかぼか教室」を開いています。役場健康福祉課の職員や保健師、看護師や栄養士のほか、町体育指導委員や歯科衛生士などの皆さんがスタッフとなり、さまざまな内容の教室に取り組んでいます。

高齢者が集う場所づくり

高齢化が進んでも、自分のことは自分でやり、自由で気ままな生活をできるだけ長く続けることが生きがいにつながります。

町では、ぼかぼか教室を通して高齢者が集まる場を作り、家に閉じこもらず生き生きと行き来できることを目指しています。

教室の内容はさまざま

筋力向上と転倒予防のためストレッチ体操やゴムバンド体操、ニユースポーツ体験などをを行います

栄養改善として、調理実習の後、楽しく会食しています。口腔機能が良くなるよう、口の動きのチェックや口の体操、歯磨き指導を行い、食事の誤飲を予防し、肺炎にならないようにします

認知症の早期発見のため、タッチパネル式の認知症検査



にぎやかに調理実習

と、認知症の話や、脳を活性化させるゲームを行っています

来年度もぜひ参加を

地域の人たちと集まって交流やおしゃべりをするだけでも、心がぼかばかになっけません。

普段の暮らしの中で意識して体を使うことが転倒予防に大切です。自分のできる範囲の運動を無理しない程度に続けると大きな効果が期待できます。

平成22年度も多くの参加をお待ちしています。

問合せ 町地域包括支援センター(山村開発センター内)
担当 山形祐子・生田直子(電話 72 1852)